



【物産展】

県内の企業や団体、高校などから24店が出店。徳島の逸品を買い求める人々にぎわった。



【男性の参画】

大会における男性の参加者は471人と過去最高。市民ボランティアにあっては全体の4割にも上った。



【演出】

飾らない普段着な司会進行で、終始和やかな雰囲気を出し、フィナーレでは感極まる場面もあった。



【感動】

阿南の人々の心尽くしが参加者の心を打った。交流会で阿波踊りを踊り終えると、会場の熱気は最高潮に。



【料理】

30種類の郷土料理が竹の器に盛り付けられた。30周年を記念して30m巻きずしも振る舞われた。



【おもてなし】

「ウエルカムかし」「パッチワークキルト」「ひまわり」「お茶席」などで、おもてなしの心をカタチに。



日本女性会議でみせた阿南の底力！

阿南市の歴史に大きな1ページが刻まれました。10月11日から3日間、県内外から2,309人が参加して「日本女性会議〈男女共同参画〉2013あなん」が盛大に開催されました。延べ7,000人のボランティアを動員し、「あ・い・う・え・おもてなし」を合言葉に一致団結。“市民の底力”で、地方の都市でも開催できることを証明しました。「男と女 思いやりと感謝の気持ちで共に汗を流す男女共同参画」のメッセージを全国に発信し、地域社会で共同参画を実践していくための着実な一歩を踏み出しました。

阿南市で開催された「日本女性会議」では、30回の歴史の中で初めて「男女共同参画」の言葉を表記しました。これまでの開催市の中でも一番小さな阿南市が「いきいきわくわく小さなまちから新たなステージ！」のスローガンのもとに、市民・企業・行政が協働で大会を運営する独自の方式で取り組みました。特に実行委員会では、男性の意識改革に力を注いだ結果、運営委員等スタッフの男性比率は25%、大会参加者においても20%を超えました。これは今までの大会ではみられなかったことです。日本初の女性代議士で、名誉市民でもある紅露みつ氏が「婦人の向上に男子の協力を切望する」と語ったこの阿南市からさらなる男女共同参画社会の実現に向けて大きな一歩を踏み出しました。市民の皆さまには大会の準備段階から開催に至るまでの長きにわたり、ご支援、ご協力をいただきましたことに、厚くお礼申し上げます。
人権・男女参画課

【アトラクション】

地元有名連の達粋連、うずき連が本場の阿波踊りを披露。荷物にならない最高のお土産をプレゼント。



【交流会】

牛岐城が栄えていた室町時代の衣装に身を包んだ女性スタッフが、自慢の料理と笑顔を運んだ。



【分科会】

9つのテーマ別に幅広い議論が交わされた。第9分科会(DV)では、男性の視点から議論が行われた。



【ボランティア】

準備から本番まで、延べ7,000人のボランティアを動員。新聞エコバッグで徳島・阿南の魅力をPRした。



【基調報告・記念講演・シンポジウム】

内閣府男女共同参画局長の佐村知子さんによる基調報告、料理研究家の浜内千波さんによる記念講演のあと、30周年記念シンポジウムでは、有識者による議論が交わされた。





Watanabe Junko

歩んできた道のり そのものが 男女共同参画

実行委員長 渡辺 純子

2千人規模の会議を受け入れられるであろうか、という不安と期待を心の隅に抱えながら、「いつか阿南で」の夢実現の日、10月11日を無事迎えることができました。
「20年間参加した中で一番よかった」「おもてなしに感動した」などなど、参加者からたくさんのお心をいただきました。
貴重なご浄財をご提供いただいた方々、昼夜を問わず一緒に汗を流していただいたボランティアの皆さまや、いろいろな形でご支援を賜り、大会を盛り上げてくださいました市民の皆さま方に心からお礼申し上げます。
地方の小さなまちでもできることを証明できた瞬間でしたし、この日まで歩んできた道のりそのものが、思い描いた男女共同参画の姿でした。男と女が共に輝ける阿南であることを、全国に発信できたと思います。このまちから男女共同参画社会のさらなる実現に向けて新たなステージを模索し、次世代につむぎたいと思います。

回想 Recollection

市民の熱意とおもてなし で成功させた 歴史に残る大会

大会長 岩浅 嘉仁

「阿南でも成功させよう」「お客さまを温かく迎えよう」と思う一念が、大きなうねりとなり力となり、阿南市民の声となったことが、新しいステージとして歴史に残る素晴らしい大会となった要因であると思います。大会長として、市長として全ての市民の皆さまに心から感謝申し上げます。
また、実行委員長の渡辺純子さんをはじめ、開催誘致当初から携わっていただいた皆さまには大変なご労苦をおかけいたしました。重ねてお礼を申し上げます。



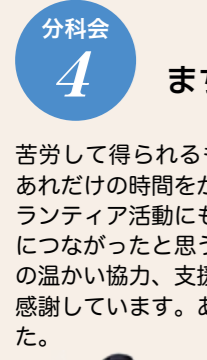
Iwasa Yoshihito

北は北海道から南は沖縄まで、全国44の都道府県から予想を上回る2300人余りのお客様をお迎えし、30回の節目となる日本女性会議を開催することができました。
今大会は、1年余りにわたる準備から当日のお接待までさまざまな分野で携わっていただいた延べ7千人ものボランティアの方々や貴重な浄財をご提供いただいた多くの協賛者の方々に絶大なご協力をいただきました。こうした熱意ある関係者の皆さまの「阿南でも成功させよう」「お客さまを温かく迎えよう」という思いが、大きなうねりとなり力となり、阿南市民の声となったことが、新しいステージとして歴史に残る素晴らしい大会となった要因であると思います。大会長として、市長として全ての市民の皆さまに心から感謝申し上げます。



分科会 1 介護と地域医療

人生の最晩年を心豊かに過ごすためには、人とつながり、社会に参加すること。人とかかわることで幸せを見いだすことができると実感しました。日本女性会議をスタートに男と女が協力し合って、孤立を防ぐ取組を地域で進めていきたい。



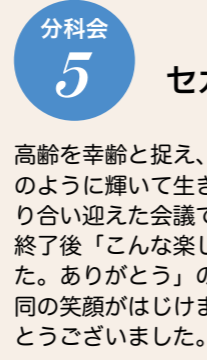
分科会 4 まちおこし

苦勞して得られるものは真の力になる。あれだけの時間をかけ、会議を重ね、ボランティア活動にも参加したことが成功につながったと思う。スタッフの皆さんの温かい協力、支援、アドバイス等々に感謝しています。ありがとうございました。



分科会 2 防災

テーマを「女性防災リーダーの育成のために～災害前後に女性の視点を～」と設定し、みんなが主役の全員参加型、手づくりによる勉強の場としました。スタッフは会議の運営を通して、防災に対する意識と知識のレベルを高めました。



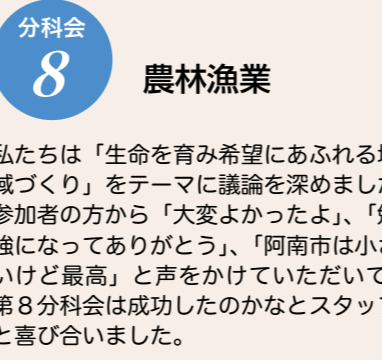
分科会 5 セカンドライフ

高齢を幸齢と捉え、セカンドライフをどのように輝いて生きていくかを、熱く語り合い迎えた会議でした。当日の分科会終了後「こんな楽しい会議は初めてでした。ありがとう」のお言葉にスタッフ一同の笑顔がはじけました。皆さまありがとうございました。



分科会 7 ワーク・ライフ・バランス

コーディネーターの渥美由喜さん（厚生労働省有識者会議委員）は、自らが男女共同参画社会をめざす実践者で、流ちょうな語りで会場を和ませ、7人の発表内容の要点をまとめていただいた。人々の多様性が生かされる社会が、今こそ求められている。



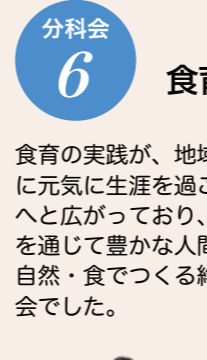
分科会 8 農林漁業

私たちは「生命を育み希望にあふれる地域づくり」をテーマに議論を深めました。参加者の方から「大変よかったよ」、「勉強になってありがとう」、「阿南市は小さいけど最高」と声をかけていただいて、第8分科会は成功したのかなとスタッフと喜び合いました。



分科会 3 子ども

さまざまな世代の大人たちが集い、話し合い、参加者全員が未来の大人たち（子どもたち）のために「今自分にできること」を考え、表明しました。一人ひとりが意識を変え、行動する大切さを確認した有意義な分科会となりました。



分科会 6 食育

食育の実践が、地域の活性化や男女が共に元気に生涯を過ごす元気なまちづくりへと広がっており、食を大切に考え、食を通じて豊かな人間性を育む「郷土の人・自然・食でつくる絆」が感じられた分科会でした。



分科会 9 DV (ドメスティックバイオレンス)

DVというテーマと男女共同参画をどのように結びつけるかという部分で何度も協議を重ねました。スタッフ全員の気持ちの足並みがそろっていたことが、成功に結び付いたのだと思います。ありがとうございました。

● 分科会

9つのテーマで分科会が行われ、パネルディスカッションやワークショップなどで幅広い議論を交わしました。それぞれの分科会長に、成果や感想などについて話を伺いました。

